

# オウム真理教対策住民協議会

鳥山地域オウム  
真理教(現アレフ)  
対策住民協議会

## 観察処分期間更新で

## 政府に要請行動

国はオウム真理教に対して、団体規制法に基づく「観察処分」に付しているが、観察処分は3年毎の期間更新が必要で、24年の1月末がその期限に当たる。当協議会では今年の4月から「観察処分」の期間更新を求める署名活動を行ってきた。その署名



平岡法務大臣に要請文を読みあげる田中会長

らに期間更新の要請を行った。

今回の要請では当協議会からは田中会長ほか2名、世田谷区からは保坂世田谷区長、板垣副区長を始めとして鳥山区議会議員、災害・防犯・オウム問題対策等特別委員長、里吉委員長ら14人が参加した。他の団体では滋賀県湖南市平松地区オウム対策委員会から釣田会長ら2名、オウム真理教の施設が存在する市町村の首長で作るオウム真理教対策関係市町村連絡会から会長の岡村川口市長、大阪市吹田市からも同副会長ということで市職員が参加をした。

法務大臣への要請では、まず岡村川口市長が「観察処分」更新のお願いと法整備の必要性を述べた。次に保坂世田谷区長が「住民は大変な思いをしてオウム問題に取り組んでいる。観察処分更新をぜひお願いしたい」と述べた。当住民協議会の田中会長は立入検査等を実施し続けている事に感謝を述べ、「未だに区民の不安や恐怖感解消されていない。観察処分の期間更新を是非お願いしたい」と要望した。

その後、それぞれの代表が大臣を囲んで

も53、21  
2筆に上り、  
当協議会では  
その署名を持  
つて、10月  
26日、保坂  
世田谷区長ら  
と法務省を訪  
れ、平岡法務  
大臣、尾崎公  
安調査庁長官

## 第5回足立区入谷地域へのオウム真理教(アレフ)進出に反対する、抗議デモ・集会に参加して

11月5日(土)入谷中央公園に集合したのは、各地の町会・自治会などから約200名の住民たち。足立入谷地域オウム真理教対策住民協議会水上実行委員長によるシュプレヒコールに先導されて、オウム真理教施設までデモ行進を行った。施設前で、齋藤会長より、オウム真理教は未だに麻原の



教えを信じ、継承している事に変わりはない。恐ろしいサリン事件の、被害者の現状を我々は忘れない。オウム真理教は、いずれば崩壊するだろう。我々はそれまで断固闘いそれを見届けよう。など抗議文が読み上げられたが、オウム真理教は誰も姿を見せず静まりかえっていた。

10分程の意見交換を行った。そこではオウム真理教とのたたかいに終わりが見えない。取り組んでいるのは町会の人達を中心に既に60代、70代だ。またオウム信者の裁判が長すぎる事等の意見が出た。法務大臣は「住民の不安はしっかり受け止めた。しっかり対応するよう指示したい」と述べた。

抗議デモ後の集会で、齋藤会長よりオウム真理教居住一年半の経過報告がされた。オウム真理教の施設の中で、何がやられているのか分らない、住民の毎日の不安な生活は計り知れない。闘いは長くなるだろうが、区長をはじめ関係者の力をお借りして、闘って行きたいと挨拶。その後の講演では、地下鉄サリン事件被害者の会代表、高橋シズエさんにより、被害者の現状がビデオを見ながら伝えられ、未だに被害者の苦しみが続いている事に会場は静まりかえった。続いて地下鉄サリン事件被害対策弁護団事務局長、中村裕二弁護士が講演した。友人だった坂本弁護士一家殺害事件の状況が話され、映像から伝わる中村氏の無念さと怒りが、会場のすべての人たちに届けられた。麻原の刑執行の前に、延命祈願の祈りなどにより、オウム真理教が再びテロ集団化される事の恐れも話された。結びに、私たちの使命は足立の子どもたちのみならず、日本、世界の子どもたちが、悪魔に心を盗まれようとしている現状を阻止するために、オウム真理教の一日も早い解散を願い、関係者が団結する事が大切であると話された。抗議デモ・集会に参加して、11年前の鳥山地域の住民が歩んできたと同じ長い道のりを、これから活動して行くだろう足立区の皆さんに、応援の拍手とエールを送りたい。



## 「観察処分」期間更新署名、ご協力に感謝いたします

10月14日に行われた住民協議会で「観察処分」期間更新要請署名の集計数が報告された。「53,212筆集まりました。過去最高の署名数です」との報告に、会員一同満面の笑み。どこからともなく、「よく集まったね」との声。住民協議会会員の頑張りは勿論、世田谷区民、世田谷区町会総連合会によるところが大きい。さらに特筆すべきは、世田谷区全町会が回覧する署名簿の回覧枚数を、前回の1枚から5枚に増加した効果が出たと考えられる。それにしても、その労力や工夫に感謝したい。

オウム真理教施設の存在する全国主要地域でも「観察処分」期間更新の署名が同様に行われた。東京都は「足

立入谷地域オウム真理教（アレフ）対策住民協議会」、滋賀県は「滋賀県湖南市平松地区オウム対策委員会」、石川県は「金沢オウム対策協議会」などだ。

10月下旬から11月上旬にかけ、各地域の住民協議会は法務省などへ要請行動を計画している。オウム真理教（アレフ）への観察処分の決定は、確実視されている。一方ひかりの輪については、3年前公安審査委員会が「ひかりの輪の動向を見る」という含みを持たせた決定がされた。今回は予断を許さない情勢だ。公安審査委員会の決定は今年中か来年早々には判明する見通しだ。

## 「ひかりの輪」の不思議 投稿

烏山地域に居住し住民協議会で活動する者として、オウム真理教（ひかりの輪）についてふれてみた。今年3月、主流派と言われる「アレフ」が足立区に移転し、残るは「ひかりの輪」10数名となった。ひかりの輪は上裕史浩が平成19年にアレフから脱会し設立した。しかしその設立の過程では、奇妙で真しやかな噂が流れた。ひかりの輪の設立は、東京拘置所に拘留中の元教祖、麻原彰晃（本名松本智津夫）からの指示によるものだという。その内容は、アレフのように過激でなく、麻原色を消し、社会的にも認められる、穏健なイメージの団体の設立が言われたという。狙いはオウム真理教の本質を隠し、団体規制法に伴う「観察処分」の対象団体からの脱却だとの説だ。

ひかりの輪は、アレフが足立区入谷に退却後も、更地となった土地の真向かいのマンションに、上裕史浩を筆頭として居住している。全国に200余名の信者が現存し、烏山地域は本部機能を果たすと言ってよいだろう。ひかりの輪は、日本各地の神社仏閣や、山岳地帯（観光地）を巡る、聖地巡礼がイベントの売りのようだ。相当なペースでこの行事は行われている。また、麻原彰晃が

行っていた、信者の額に親指を当てる「シャクティパット」は、法外な料金は請求しないようだが、近頃は法具を使用して、続けている。上裕の講演や座談会がネット上の動画にも度々登場する。住民協議会の抗議デモで、抗議文を毎回受け取る、幹部信者の広末も出演している。上裕と広末は、話しが饒舌で、自らの話に酔い、激昂する点が共通している。地下鉄サリン事件後のテレビ出演で、声高に話していた上裕。住民協議会主催の抗議行動で興奮し、自身の主張をとうとうと述べた広末。二人の姿から、ひかりの輪の成熟度の低さ、身勝手さが垣間見える。不可解といえ、マンションの1、2階部分を占有し、3階以上の住民との居住を、11年間続けてきたこと。地下鉄サリン事件当時、幹部信者であった上裕が、ひかりの輪の中心に居座っていることなどは自己中心そのものだ。

さて、ひかりの輪は来年1月末日で期間が満了する。「観察処分」対象団体からのがれる対策に力を集中してきた。住民協議会は住民の協力で、「観察処分」期間更新署名を集め対抗している。その決定は「公安審査委員会」が行うが、動向を見守りたい。

## 住民協議会活動報告

10月14日(金) 住民協議会  
10月15・16日(土・日) 烏山区民センター文化祭で募金活動  
10月16日(日) 上北沢公園自由広場で募金活動  
10月23日(日) 第26回芦花まつりで募金活動  
10月31日(月) 協議会ニュース110号初校正  
11月5日(土) 第23回抗議デモ・学習会のチラシ配布  
11月5日(土) 足立入谷地域オウム真理教(アレフ)対策住民協議会抗議デモ参加

11月5・6日(土・日) 粕谷区民センター文化祭で募金活動  
11月6日(日) 上北沢区民センター文化祭で募金活動  
11月6日(日) えがお世田谷で募金活動  
11月7日(月) 協議会ニュース110号再校正  
11月8日(火) 事務局会議  
11月12日(土) 第23回抗議デモ・学習会  
11月15日(火) 協議会ニュース110号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。